

八幡門前自治会がある地区の歴史小話（令和4年1月） 回覧

5. 千本公孫樹^{せんぼん いちよう}

「千本公孫樹」は国指定天然記念物であり、新日本名木 100 選（花博協会・読売新聞社）にも選ばれています。市街地、特に我々の住まいの近くに樹齢 1200 年超、幹囲が 10 超の巨木があることは貴重で、誇らしい。



『江戸名所図会』^{えどめいしよずえ}（天保年間刊行）に「神前右脇に銀杏の大樹あり神木とす。此樹のうつろの中に小蛇^す栖めり、毎年八月十五日祭礼のとき、音楽を奏す。其の時数万の小蛇枝上に顕れ出ず。衆人見てこれを奇なりとす」との記述がみられます。

白蛇を見ると長寿に恵まれるとの言い伝えもあり、自治会の古老に見た人がおります。もうすぐ 80 歳ですが、お元気であり、言い伝え通りの長寿を祈ってます。

昔、周辺の子供達は登って遊んでいました。登ると真ん中に大きな空洞が広がっていたのを覚えています。（今は絶対にダメです。時代が違う）

昭和 30 年初期に、この地で過ごした人の思い出に「その中の木は腐ったり折れたりして、その空洞部分を伝わってぐると中で一周することができたのである。そして、それから更に高いところへ上ったりすることもできたし、横に延びた太い枝の上に出ることもできた。一中略—そこには外から見るよりはずっと広い変化に富んだ空間があった。ただ蛇が住んでいたのは事実であった。一中略—腐った木の洞の中に蛇がいた^{うろ}のを見つけゾーとしたことを覚えている。またこんなこともあった。それは春、新緑のとても温かい気持ちの良い日であった。我々は千本公孫樹の南側の小さな空き地で三角ベースの野球をしていた。バッターの上には公孫樹の大きな枝が延びてきていたのだが、そこから突然蛇がバッターの上に降ってきたのだ。小さな蛇であったがバッターはパニックになった。野球を続けていると、今度はキャッチャーの前に蛇が落ちてきた。それからもう一回、今度は少し大きい蛇が落ちてきた」（『終戦直後の八幡 小学生の目に映った混乱期の八幡』佐藤勉 著）（注）三角ベース…2 塁が無い野球で少人数で狭い所で可能

寺社に公孫樹の大樹という風景は、飯香岡八幡宮にも夫婦公孫樹（県天然記念物、社伝では樹齢 1300 年超）、中山法華経寺には泣き公孫樹など多く見られます。これは公孫樹は水分が多く、火伏せの木と考えられていたこともあります。^{せんそうじ}浅草寺の頼朝公が挿した枝から育ったと伝わる公孫樹は戦災で焼けても生きています。

タイのアユタヤ遺跡で菩提樹に仏頭が終まっているのを見た時に私は千本公孫樹を思い出しました。菩提樹が無い日本で、乳柱（気根とも言い、枝や幹から垂れるような枝）も出て樹幹が密になって菩提樹に似る公孫樹が替わりに寺社に植えられたのではないのでしょうか。



伊藤左千夫（歌人、小説は『野菊の墓』が有名）は、こう詠んでいます。

「一本ゆ^{ひともと} 五百千幹立^{かん}つ銀杏木の ゆゆし たふとし 神の御社^{みやしろ}」

（注）一本ゆ…格助詞「ゆ」は上代語で「～より（から）」という意味。

（注）ゆゆし…由々しい（神聖であるから触れてはならず、畏れ多くて憚られる）

（注）たふとし…貴い、尊い